

お困りのときは

修理を依頼される前に **次の点をもう一度確認してください。**

こんなときは	ここを確認してください	直しかた
風が出ない または、 電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ●本体「電源 切/入」ボタンで電源を入れましたか。 ●水タンクは正しく本体に取り付けられていますか。 ●加湿フィルターは正しく本体に取り付けられていますか。 ●内部清掃ランプが点滅していませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「電源 切/入」ボタンを押して電源を入れます。 ・正しく本体に取り付けてください。 ・正しく本体に取り付けてください。 ・内部清掃運転をしてください。→(P.47)
加湿しない (湿度が上がらない)	<ul style="list-style-type: none"> ●給水ランプが点灯していませんか。 ●水交換ランプが点灯していませんか。 ●加湿フィルターお手入れランプが点灯していませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水タンクに水を入れてください。→(P.45,46) ・水タンクの水を交換してください。→(P.41~43) ・「お手入れのしかた」の「加湿フィルターお手入れランプ点灯のとき」をご覧ください。→(P.38~40)
除湿しない	<ul style="list-style-type: none"> ●満水ランプが点灯していませんか。 ●水タンクは正しく本体に取り付けられていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水タンクの水を捨ててください。→(P.43,44) ・水タンクを正しく本体に取り付けてください。→(P.16~20)
水交換ランプが消えない	●水交換終了後にリセットボタンを押しましたか。	・電源プラグをコンセントに差し込み、リセットボタンを押してください。→(P.43)
お手入れランプが消えない	●お手入れ終了後にリセットボタンを押しましたか。	・リセットボタンを押してください。→(P.40)

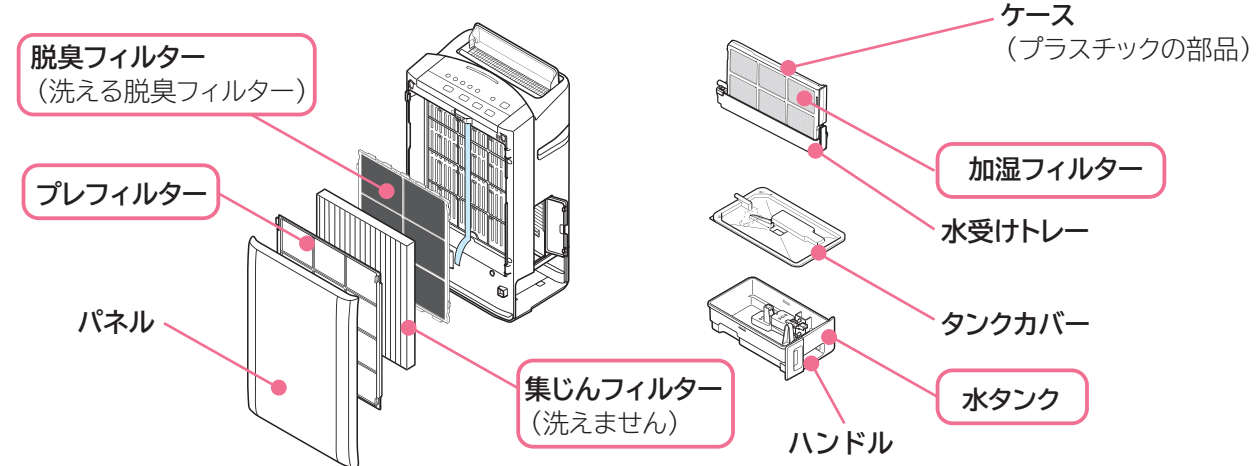
●上記の症状以外の場合は、取扱説明書の「修理を依頼される前に」をご覧ください。→(P.55~59)

こんなときは故障ではありません

こんなときは	原因(故障ではありません)
加湿運転、肌保湿運転、結露セーブ運転中に、ときどき「ウィーン」「ガラガラ」などの音がする	数分から十数分に一度、数秒間水タンクから水を吸い上げているときの音です。
除湿運転、衣類乾燥運転、結露セーブ運転時に、本体背面が熱くなる 吹き出し口から暖かい風が出てくる	ヒーターを使用して除湿を行なうため、本体が熱くなり暖かい風が出ます。
除湿運転、衣類乾燥運転、結露セーブ運転時に、油が焦げたようなにおいがする	ヒーターに付着している油分が揮発するためです。しばらく運転するとにおいはなくなります。
本体「電源 切/入」ボタンで停止しても、送風ファンがしばらく止まらず、クリーンモニターが点滅している	本体内部の温度上昇を防ぐため、しばらくの間、送風ファンが回り続けます。その後、自動で電源が切れます。
本体「電源 切/入」ボタンで停止後、送風ファンが動いている間、操作ができない	本体内部の冷却を優先しているためです。
湿度モニターの表示値と、お部屋の湿度計の表示が異なる	湿度モニターに表示される湿度は目安です。また、室内の環境差により表示が異なる場合があります。
運転モードを切り替えると、自動フラップが一度閉じてから開く	運転モードを切り替えると、位置合わせのため、自動フラップが一度閉じてから開きます。→(P.21)

●上記の症状以外の場合は、取扱説明書の「こんなときは故障ではありません」をご覧ください。→(P.58,59)

基本のお手入れ



お手入れするときは

運転が停止していることを確認してから、電源プラグをコンセントから抜く

- 運転中のときは、電源ボタンを押して、運転を停止してください。

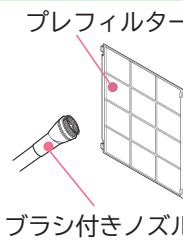
ご注意

- クリーンモニターが紫色に点滅しているときは、電源プラグを抜かないでください。「電源切」後も本体内部が熱い場合は、本体内部を冷やすためしばらくの間送風ファンを回し続けてから停止します(この間はクリーンモニターが紫色の点滅をします)。

- パネル、プレフィルター、集じん・脱臭フィルター、水タンクの取り外しかたは、カンタンご使用ガイドのP.2~4を参照してください。

プレフィルター (約1ヶ月に1回) →(P.50)

- 掃除機などでほこりを取り除く。掃除機のブラシ付きノズルを軽く当ててほこりを吸い取ってください。



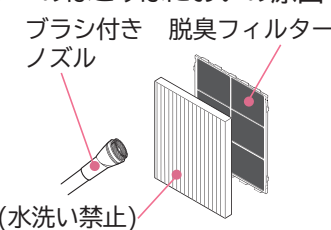
- 汚れがひどい場合は、強い力を加えずに市販のやわらかいスポンジで水洗いをして、十分に水を切って、日のあたらぬ風通しのよい場所で乾燥させてください。

ご注意

- 掃除機の床用ノズルなどで強くこすったり、タワシでこすると表面のステンレスコーティングがはがれてしまいます。
- 洗剤は、使用しないでください。

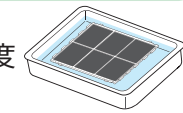
集じん・脱臭フィルター (約1ヶ月に1回) →(P.50)

- 集じんフィルター、脱臭フィルターのほこりにはおいの原因になるので、掃除機などで取り除いてください。掃除機のブラシ付きノズルを軽く当ててほこりを吸い取ってください。



脱臭フィルター (約6ヶ月に1回以上) →(P.52) 脱臭性能を維持するため、こまめなつけおき洗いをおすすめします。

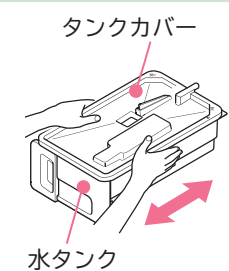
- 掃除機などでほこりを取り除く。
- 水またはぬるま湯(約40℃)に約3時間程度つけおき洗いをします。
- 陰干しで十分に乾燥させます。(風通しのよい場所で約1日)
- ぬれたままでは使用しないでください。水滴がまだ残っている場合は、水滴をふき取ってください。吹き出し口から、水滴が吹き出したり、脱臭効果が低下し、異臭の原因になります。



2-K4696-5A

水タンク (毎日) →(P.46)

- 必ず1日1回は新しい水道水に交換してください。(タンクに水が残っている場合は捨ててください)
- 水道水を少量入れ、タンクカバーと水タンクをしっかりと押さえながら振り洗いをしてください。(水を入れ換えて2~3回)



ご注意

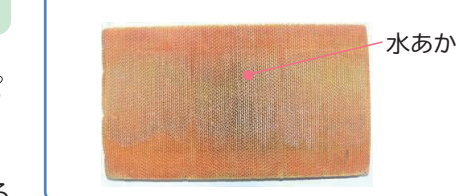
- 洗剤は使用しないでください。
- 水タンクの中には、フロートスイッチが入っています。無理な力が加わらないよう静かに振り洗いをしてください。

加湿フィルター (約1ヶ月に1回以上) →(P.48)

ケースから外さないでください。

- 水、ぬるま湯または台所用中性洗剤を溶かした水に、30分以上つけおき洗いをします。
- 新しい水に入れ換え、加湿フィルターをゆすりながらすすぎ洗いをします。(2~3回繰り返します)
- 軽く振って水を切ります。(水がしたたり落ちない程度)

水あかが落ちにくいときはクエン酸をご使用ください。詳しくは取扱説明書をご覧ください。→(P.39)



日立 除湿・加湿 空気清浄機 クリエア EP-LV1000

カンタンご使用ガイド

詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。
→(P.00)：このマークは「取扱説明書」の記載ページです。

操作ボタンとはたらき・表示

一発ターボボタン
約5分間最大風量で運転します。
→(P.29)

セルフ乾燥ボタン
(一発ターボボタンを約3秒長押し)
本体内部を送風運転で乾燥させます。
→(P.30)

クリーンモニター
二オキシセンサー・ダストセンサーが感知した空気の汚れ度合いを色の变化でお知らせします。→(P.36)

内部清掃ボタン
内部清掃を行うときに操作します。
→(P.47)

スイングボタン
風向きを変えるときに操作します。
→(P.34)

風量表示
運転中の風量を表示します。
→(P.31)

風量ボタン
風量を切り替えたいときに操作します。
→(P.31)

ECO節電運転ボタン
eco節電運転を設定するときに操作します。
→(P.33)

タイマーボタン
タイマー運転(切タイマー)を設定するときに操作します。
→(P.34)

減光ボタン
(タイマーボタンを約3秒長押し)
表示ランプの明るさを切り替えるときに操作します。→(P.35)

湿度モニター
運転中、お部屋の湿度を表示します。あくまでも目安です。→(P.36)

満水・給水・タンクなし表示
水タンクの状態をお知らせします。
→(P.43~46)

加湿フィルターお手入れ・水交換表示
加湿フィルターのお手入れ時期をお知らせします。また、水タンクの水交換が必要なときにお知らせします。
→(P.38~43)

チャイルドロック表示
チャイルドロックを設定したときに点灯します。→(P.35)

チャイルドロックボタン
(リセットボタンを約3秒長押し)
誤操作を防止したいときに操作します。→(P.35)

リセットボタン
「加湿フィルターお手入れ」「水交換」点灯時、表示をリセットするときに操作します。
→(P.38~43)

電源 切/入 ボタン
電源を入切るときと、運転停止するときに操作します。

脱臭コースボタン
「快速」「いつも」コースの脱臭コースを設定するときに操作します。→(P.32)

- すべての運転モードにおいて、空気清浄機能が動いています。

運転モード選択ボタン			
<p>空清 花粉 空清 →(P.23)</p>	<p>空清モード お部屋の空気に合わせて自動で風量を調節し、集じん・脱臭を行います。</p>	<p>(長点滅:肌保湿) 加湿 加湿空清 [長点滅] →(P.24)</p>	<p>肌保湿モード お部屋の湿度を高め約60%にコントロールします。冬季など乾燥しがちなお肌とうるおいを与えます。</p>
<p>空清 花粉 空清 →(P.23)</p>	<p>花粉モード 床付近の花粉の捕集効果を高めるとともに、1時間毎に強風量でお部屋の空気を強制循環させて広い範囲を見張ります。</p>	<p>除湿 衣類乾燥 セーブ 除湿空清 (1秒押し) →(P.25)</p>	<p>衣類乾燥モード 大風量の乾いたきれいな風で、部屋干しの衣類をすばやく乾燥します。</p>
<p>(長点滅:肌保湿) 加湿 加湿空清 [点灯] →(P.24)</p>	<p>加湿モード きれいな空気を加湿して、乾燥したお部屋の湿度を高めます。</p>	<p>除湿 衣類乾燥 セーブ 除湿空清 (1秒押し) →(P.25)</p>	<p>結露セーブモード 暖房時には加湿運転を行います。その後、就寝等で暖房を切って室温が下がると、湿度が上がりが結露しやすくなるので、一定以上の湿度になると自動で除湿運転に切り替えて、お部屋の結露を抑えます。</p>

運転前の準備

- ご注意**
- キャスターによる移動は、ゆっくり動かしてしてください。また、移動は横方向のみです。(転倒防止のため)
 - ポリ袋に入れたままフィルターをセットしても、清浄効果は得られません。また故障の原因になります。
 - 本体を倒したり、傾けたりしないでください。

フィルターを本体にセットする →(P.14~16)

1 パネル、プレフィルターを取り外す

- 1 本体を水平で安定した場所に置きます。
- 2 パネルの下側(2か所)に指をかけて、ゆっくり手前に引き、上側へ少しずらして取り外します。
- 3 プレフィルターのつまみ(2か所)を左へ回してロックを外します。
- 4 プレフィルターを取り外します。

ご注意

- プレフィルターの端面が本体の細かいかべと接触して、プレフィルターが取り外しにくいときは、プレフィルターを手でたわませて細かいかべを乗り越えさせてください。
- つまみを逆に回したり、無理に回さないでください。破損の原因になります。

2 フィルターを取り外す(集じん用と脱臭用があります)

- 1 本体からポリ袋に入っているフィルターを取り外します。
- リボンを静かに引いてください。
- 2 フィルターをポリ袋から取り出します。

ご注意

- 脱臭フィルターは必ずポリ袋から取り出してください。
- フィルター前面は、布や紙などでふさがらないでください。
- 集じんフィルターも同様です。

3 脱臭フィルター、集じんフィルターを本体に取り付ける

- 1 脱臭フィルターを本体に取り付けます。
- リボンを脱臭フィルターの奥側にして、ラベルの脱臭フィルターセット位置にセットしてください。(リボンの先端は下側に垂らしておいてください)
- 2 集じんフィルターを本体に取り付けます。
- ラベルの集じんフィルターセット位置にセットしてください。

ご注意

- 脱臭フィルターは必ずポリ袋から取り出してください。
- フィルター前面は、布や紙などでふさがらないでください。
- 集じんフィルターも同様です。

4 プレフィルターを本体に取り付ける

- 1 プレフィルターをななめにし、つまみを上、下の順に本体の差し込み穴に確実に差し込みます。
- 2 プレフィルターを本体フィルター側へ閉じます。

ご注意

- プレフィルターの端面が本体の細かいかべと接触して、プレフィルターが取り外しにくいときは、プレフィルターを手でたわませて細かいかべを乗り越えさせてください。
- つまみを逆に回したり、無理に回さないでください。破損の原因になります。

4 フィルターを本体にセットする(続き)

- 3 プレフィルターのつまみ(2か所)を右側へ回して本体の差し込み穴にロックします。
- 4 プレフィルターを軽く引き、外れないことを確認します。

ご注意

- プレフィルターの端面が本体の細かいかべと接触して、プレフィルターが取り外しにくいときは、プレフィルターを手でたわませて細かいかべを乗り越えさせてください。

水タンクの準備をする(続き)

4 タンクカバーを取り外す

- 1 タンクカバーのつまみを上、下の順に本体の差し込み穴に確実に差し込みます。
- 2 タンクカバーを本体フィルター側へ閉じます。

ご注意

- 給水時の上限を越えると、水漏れの原因になります。
- 「給水位置」(加湿運転、肌保湿運転時の上限)まで水を入れた状態で、結露セーブ運転は行わないでください。除湿運転を行なう場合があるので、水があふれるときがあり、水漏れの原因になります。
- 除湿、衣類乾燥、結露セーブ運転で溜まった水は、使わないで必ず捨ててください。雑菌が繁殖しやすいため、健康を害する恐れがあります。

5 タンクカバーを本体に取り付ける

- 1 タンクカバーの上側のつまみ(2か所)を本体の差し込み穴に差し込みます。
- 2 タンクカバー下部を静かに押し、カチッと音がするまで確実に閉じます。

6 加湿フィルターをセットした水受けトレイが本体に取り付けられているか確認する

- 加湿フィルターを取り付けないと加湿フィルターお手入れランプが点灯し運転できません。

水タンクの準備をする →(P.16~20)

1 本体から水タンクを取り出す

- 水タンクのハンドルに手を掛けて、少し持ち上げながら静かに引き出します。

ご注意

- 本体から水タンクを取り出す際は、本体底面にキャスターが付いていますので、動かないように本体を押さえながら、静かに引き出してください。(キャスターにストッパーはありません)

2 タンクカバーを外して、梱包用パッキンを取り外す

※初めてお使いになるときは、必ず行なってください。

注意

- フロートスイッチに無理な力が加わらないようにしてください。破損すると「満水」を検出できなくなり、水漏れの原因になります。
- 梱包用パッキンは必ず取り外してください。フロートスイッチが動かないと「満水」を検出できなくなり、水漏れの原因になります。

3 フロートスイッチの動作を確認する

- シーソーのように、軽く動くことを確認してください。
- ※Aを軽く押しながら、Bを軽くつまみ上げてください。

4 水タンクを準備します

※運転モードごとに、準備の内容が異なります。

空清 花粉 一発ターボ セルフ乾燥	除湿 衣類乾燥	加湿 肌保湿 結露セーブ
そのままご使用できます。各運転操作の説明をご覧ください。→(P.23,29,30)	水タンクの水を捨てます。→(P.19)	水タンクに水を入れます。→(P.17)

注意

- 給水時の上限を越えると、水漏れの原因になります。
- 「給水位置」(加湿運転、肌保湿運転時の上限)まで水を入れた状態で、結露セーブ運転は行わないでください。除湿運転を行なう場合があるので、水があふれるときがあり、水漏れの原因になります。
- 除湿、衣類乾燥、結露セーブ運転で溜まった水は、使わないで必ず捨ててください。雑菌が繁殖しやすいため、健康を害する恐れがあります。

水タンクの準備をする(続き)

5 タンクカバーを取り付ける

6 水タンクを本体に取り付ける

- 水タンクを取り付ける際、水タンク収納部にしずくが落ちている場合は、ふき取ってください。
- 水タンクを取り付けないと運転できません。

運転を始める前に

電源プラグをコンセントに確実に差し込む



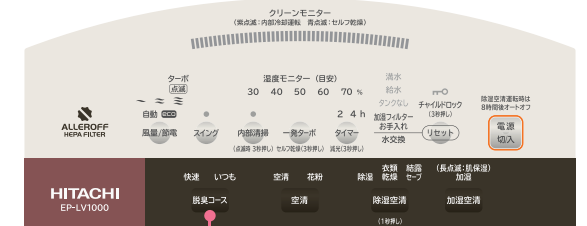
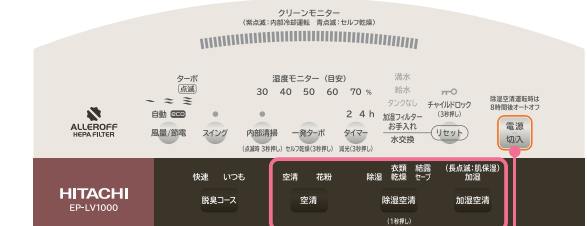
警告

- 定格15A以上・交流100Vのコンセントを単独で使うほかの器具と併用すると分岐コンセントが異常発熱して、発火することがあります。
- 電源プラグの抜き差しにより、運転を停止しない火災・感電・故障の原因になります。本体内部の温度上昇を防ぐため、本体操作部の電源切で運転を停止したあとも、しばらくの間は送風ファンが回ります。(クリーンモニターが紫色で点滅します)送風ファンが止まってから、電源プラグを抜いてください。

運転を始める

運転する →(P.23~32)

「脱臭コース」で運転する→(P.32)



1 電源ボタンを押す

- 電源が入って、運転操作待ちの状態です。※何も操作しないと、約10分で電源が自動で切れます。(表示が消えます)

2 運転したいモードのボタン

空清 除湿空清 加湿空清

のいずれかを押しして選ぶ

※「除湿空清」ボタンは1秒以上長押ししてください。

※運転中はすべての運転モードにおいて、空気清浄機能が働いています。

3 運転を停止するときは

電源ボタンを押す

※再度、運転するときは、1から操作します。

1 脱臭コース ボタンを押す

- 1 「空清」、「加湿」、「除湿」モード運転中に脱臭コースを選ぶことができます。
- 停止状態、花粉、肌保湿、衣類乾燥、結露セーブ、一発ターボ、セルフ乾燥中は受け付けません。
- 2 ボタンを押すごとに脱臭コースが切り替わります。

快速 → いつも → 解除